

埼臨技だより

発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

年 頭 挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会 長 砂 川 進

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかな2014年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は当会の活動に対しまして、多大なるご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

先ず皆様に、**公益社団法人として1月6日からスタートいたしましたこと**、ご報告申し上げます。

公益法人へ移行したため、旧法人（特例民法法人）の決算総会（解散総会）を2月中に、新法人の予算総会を3月下旬に開催しなければなりません。また、公益法人格取得を記念し、また昨年、埼臨技は創立60周年を迎えましたので、3月の総会に合わせて記念式典を予定しております。会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

昨年12月1日(日)に開催した第42回埼玉県医学検査学会は、坂場学会長、坂口実行委員長のもと、実行委員一同が一丸となり企画運営を進め、1,000名を超える参加者を得、盛会裡に終えることができ関係各位にあらためて御礼申し上げます。

今年の課題は、公益社団法人としての新たな定款・諸規程に則り、組織運営を構築し事業を展開していかなければなりません。また、埼玉県医師会の臨床検査精度管理事業に積極的に協力し、県内施設のデータ標準化に努め、日本臨床衛生検査技師会が実施する「精度保証施設認証制度」について啓発し、認定施設の増加に努めていきたいと考えています。

本年も役員一同、会務に全力で取り組む所存でございますので何卒ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。午年のこの一年が、皆様にとりまして有意義な年であると共にご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



第43回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：平成26年12月21日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：『つ・な・が・る』～ 職種の壁を越えて～

第43回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただきます上尾中央医科グループ協議会検査部の袴田博文と申します。砂川会長及び理事の指導の下で、昨年10月中旬に第1回実行委員会を始動させています。

今年は診療報酬改定の年ですが、8%消費税の増税が医療費に反映される事はかなり厳しい状況であり、検査項目包括化は益々進んで行き、検査はまさに経費だと言われる時代と考えます。

第43回学会のメインテーマは『つ・な・が・る』とし、サブテーマを「職種の壁を越えて」と決定いたしました。臨床検査技師の立ち位置をしっかりと踏まえ、チーム医療に貢献をして他職種と密なつながりを持つことの重要性を考え学会企画を計画していきますので、多くの会員の方々の学会参加をお待ちしております。

公開講演、特別講演等は決定しておりませんが、決まりしだい埼臨技だよりや学会ホームページ等にてお知らせいたしますので宜しくお願いいたします。一般演題の募集は4月頃のご案内を予定していますので、多くの会員の方々のエントリーをお待ちしています。

学会実行委員18名が力を合わせて取り組みますので、会員みなさまのご協力を心よりお願い申し上げます。
(文責：学会長 袴田博文)

第43回 埼玉県医学検査学会 実行委員

役 務	氏 名	勤 務 先
学会長	袴田 博文	上尾中央医科グループ協議会
実行委員長	飯田 眞佐栄	(株)アムル上尾中央臨床検査研究所
副実行委員長 ・事務局長	岡田 茂治	埼玉県立がんセンター
運営部長	小松 正人	さいたま赤十字病院
学術部長	武関 雄二	自治医科大学附属さいたま医療センター
会計部長	小島 徳子	上尾中央総合病院
運営	手塚 裕太	浦和医師会メディカルセンター
運営	木暮 憲幸	朝霞台中央総合病院
運営	田中 はるな	埼玉県立がんセンター
運営	小林 竜一	白岡中央総合病院
運営	長谷川 卓也	上尾中央総合病院
運営・会計	早坂 拓哉	伊奈病院
学術	笹野 勝年	熊谷総合病院
学術	鰐淵 康一郎	北里メディカルセンター病院
学術	原 誠則	行田総合病院

第42回埼玉県医学検査学会を終えて

学会参加者に心より感謝申し上げます

第42回埼玉県医学検査学会
学会長 坂場 幸治

第42回埼玉県医学検査学会が盛会裏に終了したことに、学会実行委員会を代表してお礼申し上げます。砂川会長、津田副会長、神山副会長、理事の皆様方のご指導のもと、一昨年10月より学会実行委員会を立ち上げ、種々の準備を行い、あっという間の一年間でした。学会当日は理事の方々、研究班の方々のご助力のおかげで学会運営をスムーズに行うことができました。

学会を成功させるにはどうしたら良いか。その答えは『一般演題および参加者を多く集めよう』その目標に向かって実行委員一丸となりました。それに応えてくださったように演題数は138題となり、学会当日は天候にも恵まれ参加者も1055人と何れも過去最高でした。学会に参加していただいた埼臨技会員、賛助会員、学生の皆様方には実行委員一同心より感謝申し上げます。

市民公開講演では災害時における避難所での雑魚寝によりエコノミークラス症候群を発症する危険性と、それを回避するための段ボールベッドの設置などについてご講演をいただきました。また、この公開講演と共に一般市民も含めた静脈エコー体験コーナーも実施し参加者は131人で、驚くことに2名の方に深部静脈血栓症が発見されました。午後からのReversed CPCは第一会場（市民ホール）で行われ、200名分の席を用意していましたが立ち見がでるほどでした。case 1はサルコイドーシスで、case 2はplasmablastic lymphomaです。当日、参加できなかった会員のために埼臨技学会ホームページに病態の詳細を掲載しました。特別講演では、近年日本中で注目されているiPS細胞について基礎研究の現状と臨床応用までわかりやすくご説明いただき、会員にとって有意義なものとなりました。また、研究班セミナー、ランチョンセミナーでは各研究班を中心に、臨床検査における限りなき追求心から生まれた『匠』の技を持たれている方々をお招きしての講演、さらに、学生には社会人となったときの接遇マナーについてのセミナーも行いました。一般演題も含め全ての会場がほぼ満席の状態でした。

最後に、本学会開催にあたり会員の皆様方、賛助会員各社、関係各位のご支援・ご協力に対し、学会実行委員一同深く感謝申し上げますと共に、本学会が『匠』の技をその糧として新たな臨床検査の発展に結びつくことを期待します。



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 梅毒・マイコプラズマについて学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成25年10月18日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講演 1：梅毒血清検査

講師：市川 裕介（極東製薬工業株式会社）

講演 2：マイコプラズマ抗原キットのご紹介

講師：安倍 夏生（極東製薬工業株式会社）

参加人数：会員56名 賛助会員 3名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 佐野悦子 相坂由里子 大島まり子 鈴木淳子
持田和紀

研修内容・感想など

今回は、「梅毒・マイコプラズマについて学びましょう」という題名で2人の講師にお願いしました。

講演1は「梅毒血清検査」と題して市川氏による梅毒の定義、梅毒検査法、検査結果の解釈、ラテックス凝集反応であるRPR法、TPLA法の紹介等であった。RPR法の抗原であるカルジオライピン・レシチンは、各種生物に広く分布しており、ヒト組織の構成脂質のひとつである。よってこの抗原に対する抗体は外来物質及び自己抗体としての性格を併せ持つため、各種感染症、組織破壊を伴う疾患、自己免疫疾患等でも陽性化する。生物学的偽陽性(BFP)発生頻度としてマalariaでは100%陽性になるということであった。TPLA法の問題点の一つとして、メーカー間の単位の統一性に欠けるところがあり、試薬毎にTPHA法との互換性を認識していなければならないことである。検査技師としては、単位と数値の統一性が望まれるが、メーカー間の歩み寄りには困難のようである。RPR法、TPLA法の結果に疑問を持つ場合(非特異反応等)はメーカーに解析して頂くことと、担当医師にはFTA-ABS法での確認依頼を行なうことが必要と考えられる。

講演2は「マイコプラズマ抗原キットのご紹介」と題して安倍氏による講演が行なわれた。マイコプラズマ肺炎の簡便検査法としてICA法によるIgM抗体測定検査が用いられているが、いったん感染すると少なくとも半年間は抗体が産生され陽性が続いてしまう等の特徴がある。今回の内容は、マイコプラズマに特異的な抗体を用いた、ICA法を原理とするマイコプラズマ抗原検査キットが発売されたのでそのキットの説明であった。抗原検査であるため、発症日には検出可能であり、抗体検査よりも早期に診断、治療が可能となる。また、咽頭拭い液を使用するため、採血が不用で、判定時間は15分である。保険適用で保険点数は150点である。Mycoplasma pneumoniaeの抗原検査であるが、Mycoplasma genitaliumとは交差反応を示すという報告であった。本検査のポイントとして検体採取法があり、口蓋垂裏側の鼻咽頭(鼻咽腔)の表面を確実に擦過することが大切であるということであった。

(文責：齊藤雅一)

テーマ 採血・採血管について基礎から学びましょう

主催 血清・臨床化学検査研究班合同

実施日時：平成25年11月20日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講師：市原 文雄（積水メディカル株式会社）

参加人数：会員127名 賛助会員13名 学生 2名

出席した血清研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 佐野悦子 相坂由里子 大島まり子

鈴木淳子 持田和紀

出席した化学研究班班員：三木隆治 巖崎達矢 永井謙一 安田達明 大谷真澄 中野将

稲山拓司 大地康文 藤本丈志

研修内容・感想など

今回は、採血管の仕組みから採血時の注意事項、TDMの基礎知識についての研修会を行った。採血管は検査技師にとって最も馴染みが深いもので、多くの方々に参加していただいた。

採血ガイドラインより、真空採血管の採血順序は凝固、赤沈、血清又は血清、凝固、赤沈が推奨されている。これは各採血管の間での内容物コンタミネーションによる検査値への影響を防ぐためである。一方シリンジ採血の場合、血液凝固の影響が大きい検査項目から分注する必要がある。いずれも、確実なエビデンスが得られているものは少ないため、最終的には状況に応じた判断が採血者に求められる。

採血時の注意事項として、採血量不足による残陰圧での溶血やクレンジング動作によるK高値化などがある。見逃されがちなのが生化学用採血管の転倒混和である。積水製インセパックでは転倒混和が不足するとHBs抗原の偽陽性率が12.5%上昇する。原因は転倒混和不足による微小なフィブリン析出、血球成分の浮遊などが高感度の試薬に影響すると考えられている。偽陽性率を減らし、無駄な再検をなくすためにも生化学用採血管も必ず転倒混和する習慣を身に付けていただきたい。

最後に、分離剤の血中薬物への影響に関連してTDMの基礎知識を説明していただき大変内容の濃い研修会であった。今後採血業務にあたる方は、各々で正しい知識を身に付け、また施設内での手技の統一化を図り、信頼できるデータを提供してほしい。

(文責：持田和紀)

テーマ うまくなろう！ 銀染色

主催 病理検査研究班

実施日時：平成25年11月22日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティセンター 点数：専門教科-20点

講師：霞 流彩（株式会社ロッシュダイアグノスティックス）

岡村 卓哉（獨協医科大学越谷病院）

沼上 秀博（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

古谷津純一（獨協医科大学越谷病院）

参加人数：会員35名 非会員2名

出席した研究班班員：沼上秀博 渡邊俊宏 荻真里子 金泉恵美子 岡村卓哉 三鍋慎也

細沼佑介 関口久男 高橋俊介 森田繁

研修内容・感想など

「うまくなろう！銀染色」をテーマとしてグロコット染色と鍍銀法を中心に講師4人に講演していただいた。

霞氏より特殊染色装置の機器の動作環境、鍍銀染色・グロコット染色の方法、染色の再現性実験を行いその結果を紹介された。自動染色装置は、染色パラメータを数段階変更することができ、ある程度の染色態度の強弱を変化させることができるとのことであった。自動化は精度管理や安全といった点で優れており、将来の可能性を学ぶことができた内容であった。

岡村技師は、グロコット染色と鍍銀法それぞれ、染色工程・使用試薬のアンケート調査と染色標本を、協力いただいた9施設から回収し、比較検討した結果を報告された。工程・試薬はほぼ同様であっても、染色結果に差が認められる結果であった。

沼上技師はグロコット染色の原理や良好な標本作製するための工夫を紹介された。また深在性真菌症で見られる代表的な感染真菌の特徴所見を解説された。

古谷津技師は鍍銀法を講演され、反応原理が類似している銀塩写真作製方法を例として述べられた、また現在われわれが銀アンモニア反応に使用している作製方法にいたるまでの先人たちの歴史から学んだ講演であった。

銀を用いた染色はこの他にもいくつかある。これら銀を用いる染色は手技が複雑であったり、ちょっとした加減で染色態度が大きく変わってしまう「技術を要する染色法」である。今回の研修では、染色結果の不具合を経験した時の対処方法のヒントや、頻繁に経験できない真菌症を写真とともに特徴的な所見が視聴でき、日頃の業務に役立つ内容であった。

(文責：森田 繁)

テーマ 第16回 秩父臨床化学セミナー

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成24年11月23日14時00分～11月24日12時00分

会場：秩父小鹿野町 宮本荘 点数：専門教科－30点

講師：小田垣真一（和光純薬工業株式会社）

飯塚 直美（株式会社シノテスト）

角山 功（シスメックス株式会社）

柴田 真明（上尾中央総合病院）

安田 達明（株式会社アムル）

小林 亘（デンカ生研株式会社）

大地 康文（さいたま市立病院）

三木 隆治（獨協医科大学越谷病院）

参加人数：会員39名 賛助会員30名

出席した研究班班員：三木隆治 巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 安田達明 大谷真澄
中野将 藤本丈志 大地康文 稲山拓司

研修内容・感想など

今回で16回を迎える秩父臨床化学セミナーは、周りの山々がすっかり秋色に色づいた中、秩父小鹿野町の宮本荘で開催された。今回は研究班活動を支えている諸先輩方や埼臨技会員の皆様のご協力により、参加者が例年より多かった。

初日は午後の部として3つの講演とナイトセミナーが企画され、【リポ蛋白の変性とその測定値】では、リポ蛋白の基礎と組成・代謝などの話から、それぞれの分析法の測定原理や問題点、リポ蛋白が変性を伴った時の解析方法までわかりやすく講演して頂いた。また、LP-XやLP-Yなどの特殊な症例に対する電気泳動解析についても詳しく講演していただき、HDL-C、LDL-C測定の奥深さを改めて感じた内容であった。【アミラーゼ基質の標準化】では、AMY測定法の歴史的な流れから、多数の基質が存在するポイントとなった標準化に向けての生化学的要件などを講演して頂いた。それぞれの基質ごとの特色や反応原理の違い、生化学的特徴などについて具体的に説明いただき理解を深めることができた。【トレーサビリティについて】では、信頼できる測定値のための生化学分野における計量計測トレーサビリティや不確かさの評価基準、ISO15189の認定基準項目など多岐に渡って講演して頂いた。不確かさの重要な成分を考えると例として、ASTの測定結果の特性要因図を示していただき、多岐にわたる要因が測定結果のばらつきの大さを表すパラメータになることが理解でき、今後の精度管理に役立てていける内容であった。【ナイトセミナー】では、内部精度管理についての3事例と入院患者検査結果でのパニック値の2事例が提示された。ルーチンにおけるコントロール血清異常値への対処法やパニック値に対する報告の仕方など、なかなか聞けない他施設での対応を知る機会でもとても参考になった。また、会場からも補足や質問など活発な意見交換の場となり、今後のルーチンに生かしていける有意義な内容であった。

2日目は午前の部で3つの講演が企画され、【ラテックス凝集免疫比濁法試薬の技術】では、LTIA法の基本的な原理から、販売されているCRPやフェリチン、 β 2マイクログロブリンなどで用いられている技術内容や高性能化の要因などを講演していただいた。まれに発生する非特異的反応事例については、IgM型RFが多いとされ、それらの事例の解析結果とそれを回避する技術の内容についても示していただいた。【症例検討】では、パニック値の2事例を臨床経過の流れとともに提示していただき、推定しうる疾患や必要な追加検査の考え方などについて講

演していただいた。【臓器と検査項目】では、臓器ごとの検査項目についての考え方や項目ごとの関連性などを講演いただいた。これからの検査技師の目標として、検査結果の妥当性や整合性を検討した上で、電子カルテや臨床情報などの様々な情報を収集し、総合的な見方やエビデンスに基づいたコメントが求められてきている事を感じることができた講演であった。

秩父臨床化学セミナーを通じて、臨床化学分野の知識から検査データの意味を知り、さまざまな見方を向上させていく大事さを改めて感じました。また、様々な施設やメーカーの方々との交流を深め、情報を共有できるこのセミナーは大変有意義な研修会だと思った。

(文責：稲山拓司)

第16回 秩父臨床化学セミナーに参加して

埼玉医科大学総合医療センター 大出 淳

澄んだ空気、色とりどりの秋に包まれる秩父で、今年も恒例の臨床化学セミナーが開催されました。

今回は、初日にリポ蛋白の測定についてから始まり、アミラーゼ基質の標準化とその変遷、トレーサビリティと不確かさ、2日目にラテックス凝集免疫比濁法試薬の原理やその技術、症例検討、臓器と検査項目の講義が行われました。基礎的な内容や業務の中で疑問に思っていたことなど学ぶことも多く、自分にとってとても勉強になる内容でした。

恒例のナイトセミナーでは普段ありがちな事例と実際の症例の検討が行われ、他の参加者の意見や疑問が飛び交い、予定された時間を超過してしまうほどでした。事例では標準物質が濃縮した場合や試薬を入れ間違えた場合に測定値にどう影響が出るか、パニック値をどのように設定しているかなど、症例では脂肪乳剤を投与した場合など、普段ではなかなか知り得ない内容を討論することで自分はもちろん、他の参加者にも良い刺激になり、充実した時間を送れたのではないかと思います。

宿泊の研修会なので敬遠してしまう方もいらっしゃると思いますが、楽しみながらも真面目に勉強することができるのでぜひ参加してみたいと思います。



平成25年度 社団法人埼玉県臨床検査技師会 第9回 理事会議事録

日時：平成25年12月10日(火) 18時30分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家 7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席者：砂川、津田、神山、前原、矢作、岡田、奈良、猪浦、長岡、伊藤、島村、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、小関、小山、遠藤、細谷

Ⅰ. 行動報告(平成25年11月14日～平成25年12月9日)
11月14日(木)第8回理事会：

砂川、津田、神山、前原、矢作、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、小関、茂木、小山、山口、野瀬、遠藤、細谷

11月18日(月)総務部会議：岡田、奈良、長岡、伊藤

11月20日(水)第43回埼玉県医学検査学会第2回
実行委員会：岡田、長岡

11月22日(金)第57回埼玉県公衆衛生大会：
砂川、岡田、奈良

11月27日(水)第42回埼玉県医学検査学会第14回
実行委員会：奈良、松岡、濱本、長岡

11月28日(木)平成25年度精度保証施設認証委員
会：砂川、前原、岡田、小関、茂木、小山、山口、野瀬

11月30日(土)第42回埼玉県医学検査学会事前準備：
神山、岡田、奈良、長岡、

松岡、濱本

11月30日(土)事業部会議(検査と健康展準備) :

津田、濱本、藤井、長澤

12月1日(日)第42回埼玉県医学検査学会 :

砂川、津田、神山、前原、矢作、
岡田、奈良、猪浦、長岡、伊藤、
島村、松岡、小島、濱本、藤井、
長澤、小関、茂木、小山、山口、
野瀬、遠藤

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 法人移行作業の進捗報告について
- 2) 法人移行に伴い各会計を12月末に締めるよう各部署に依頼をした。
- 3) 日臨技認定更新指定研修会(心電検査)の登録申請が承認された。
- 4) 11月22日、埼玉県公衆衛生大会が開催され、当会員4名が県知事表彰を受賞した。
- 5) 櫻林郁之介学術顧問が公益信託臨床検査医学研究振興基金の「藤田光一郎賞」を受賞した。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第415号12月15日発行予定

3 事業部

- 1) 検査と健康展会計報告について

4 学術部

- 1) 平成25年度2月3月生涯教育プログラム発行予定(12月15日)
- 2) 平成25年度関甲信支部・首都圏支部合同臨床化学検査研修会案内について
- 3) 第42回埼玉県医学検査学会優秀発表賞について

5 精度保証部

- 1) 精度保証施設認証委員会にて、平成25年度認証取得申請施設の審査を行い、10施設(更新8施設、新規2施設)について日臨技への申請書の提出を行った。

6 会計部

- 1) 日臨技より、平成25年度会費2名10,000円、入会金2名1,000円、合計11,000円及び生涯教育助成金150,000円(7月7日、9月13日、9月26日分)の入金があった。

7 精度管理委員会

8 関甲信支部

9 第42回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月27日、第42回埼玉県医学検査学会第14回実行委員会を開催した。

10 第43回埼玉県医学検査学

- 1) 11月20日、第43回埼玉県医学検査学会第2回実行委員会を開催した。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(会費納入済)(平成25年度分)
会員数 2,334名
(新入会員195名[平成24年度会員数2,256名])
賛助会員 72社[平成24年度 69社]

平成25年12月2日現在

- 2) 埼臨技事務所の年末年始休暇について
12月28日(土)～1月6日(月)
- 3) 一都八県会長会議および関甲信支部幹事会への出席について
砂川会長、津田副会長、神山副会長の3名が出席することとなった。
日 時：平成26年2月2日(日) 10時～
会 場：山梨県石和温泉ホテル甲斐路
- 4) 関甲信・首都圏支部 人材育成研修会への出席について

日 時：平成26年2月1日(土)

14時50分予定～

会 場：山梨県石和温泉ホテル甲斐路

担 当：一般社団法人山梨県臨床衛生検査技師会

講演名：「一瞬を捉える力～継続する力」

講演1. ～撮影よもやま話～

写真が教えてくれたこと

講演2. 地域とともに100年

～ローカルスーパー奮闘記

- 5) 埼玉県看護協会新年懇話会出席について
砂川会長が出席することとなった。

日 時：平成26年1月11日(土)

12時～14時30分

会 場：ホテルブリランテ武蔵野

2 総務部

3 事業部

- 1) 平成26年賀詞交歓会実施要綱について

4 学術部

5 精度保証部

6 会計部

- 1) 事務員の冬季賞与について

IV. 議事の経過の概要およびその結果

定款24条の規定により、会長 砂川進氏が議長となった。

事務局

1. 公益法人埼玉県臨床検査技師会登記日について

- 砂川会長より標記の議案について、平成26年1月6日（月）に埼玉県法務局に出向き登記申請をしたいと発言があった。これを受け出席理事全会一致で承認した。
2. 諸規程検討委員会への諸規程集作成の諮問について
神山副会長より標記の議案について、諸規定委員会を開催し見直しを行ったと発言があった。これを受け出席理事全会一致で承認した。
3. 移行総会開催について
砂川会長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、平成26年2月20日（木）に開催することを出

- 席理事全会一致で決定した。
4. 公益法人設立祝賀会開催について
砂川会長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、総会及び埼臨技創設60周年記念祝賀会と同日に開催することを出席理事全会一致で決定した。また、開催場所と期日については事業部および三役に一任することとした。

総務部
事業部
学術部
精度保証部
会計部

求人案内

○藤間病院

採用条件：正職員

連絡先：048-522-0600（内線120） 総務課 佐藤

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

私は餃子が大好きです。職場近くの中華屋さんの餃子が美味しくてその味に近づけたいと思い、試行錯誤しています。野菜か調味料か・・・私に足りない物は何なのか？。そして、餃子を作る度に主人に評価してもらおう。しょうがの味が強すぎたとか、塩加減が薄いとか。話をしながら、餃子をパクリ。

主人が不在の時は近くのスーパーで決まって餃子を購入し、ひとりビールを片手に大きく口を開けて餃子を頬張る。大きく口を開けて食べることで、私は餃子から元気をもらっているように思います。

なかなか人前で大きく口をあけて食べることはできませんよね。ですから皆様、気の許す時に大きく口をあけて、好きなものを頬張ってみてはいかがでしょうかでしょう。きっと・・・笑みがこぼれて元気になることでしょう。

今年は、皆様の笑顔が昨年より多くなりますように。

(伊藤 記)

